

1 現状・課題

(1) 冊子の概要

- 都民に平時に医療に関する制度や基本的な知識を平易に学んでもらうための冊子であり、都民に医療に関する全般的な情報を理解してもらい、納得して医療を受けてもらうことを目指し、平成18年度に作成。

(2) 知って安心暮らしの中の医療情報ナビシリーズ

項番	種類	対象者
1	「大人編」	高齢者
2	「子供の発熱」	乳幼児の保護者
3	「病気やケガは突然に」	中高生
4	「ミニ版（普及用リーフレット）」	—

(3) 活用状況(大人編)

- 医療機関等の相談窓口での患者や御家族に対する説明時に活用してもらうこと、区市町村、地区医師会、地域包括支援センター等での勉強会やイベントなどで活用してもらうこと等によって、医療情報への理解促進に繋げている。
- 年度当初に医療機関や区市町村、地区医師会等に配布するとともに、冊子を希望する医療機関の団体等へは、随時配布している。また、冊子のデータをHPへ掲載し、普及啓発を行っている。

(4) 課題(大人編)

- ① 国や都の施策の動向が冊子の内容に適切に反映されていない。
- ② 随時、新しい情報を追加したことにより、全体的な統一性が取れておらず、構成の見直しが必要。
- ③ 目次等が分かりずらく、一般の都民が知りたい内容をすぐ見つけられない。

2 「医療に関する都民意識調査」より

令和元年11月～12月「医療に関する都民意識調査」より

- 体調不良時で最初にかかる医療機関として、11.2%が大病院、6.8%が中小病院に行くという回答。
 - ⇒ 医療機関の役割分担の認識不足
- 最初にかかる医療機関が「大病院」である理由として、「診療科が多く、どんな病気にも対応してくれると思うから」「専門性が高い治療が受けられると思うから」が高い割合を占めていた。
 - ⇒ かかりつけ医の役割の理解不足、医療機関の役割分担の認識不足
- 65歳未満の方は、約半数以上が「かかりつけ医がない」と回答。そのうち、40代から65歳未満の年代では、病気やケガで定期的に通院している方の割合も高いが、かかりつけ医がないことが判明。
 - ⇒ かかりつけ医の役割の理解不足
- 現在、かかっている医療機関について、診療所にかかっているの方が「健康について何か心配があるときに幅広く診てくれる」「健康のことを何でも相談できる」の項目について、大病院や中小病院にかかっている方に比べ高い割合で回答
 - ⇒ かかりつけ医を持つことのメリット



調査結果から分かる都民の医療のかかり方等の傾向を踏まえ、冊子の改訂に活用

3 「医療情報ナビ(大人編)」の改訂の方針・ポイント

方針 現在の医療情報ナビの課題を踏まえ、地域医療構想に掲げる「誰もが質の高い医療を受けられ、安心して暮らせる「東京」」を目指し、医療提供施設相互間の機能の分担や業務の連携の重要性、適切な医療のかかり方、かかりつけ医の役割に関する理解を促進し、医療に関する適切な情報提供・普及啓発を図る。

ポイント① 国・都の施策や「医療に関する都民意識調査」を踏まえた項目を盛り込む

☞ 適切な医療のかかり方、かかりつけ医の役割、医療情報の適切な選択、ACPなどの項目を改定・新設。

ア 適切な医療のかかり方

- 緊急のとき、緊急性がないときの対応方法

イ かかりつけ医

- かかりつけ医の役割、メリット等

ウ 医療情報の適切な選択

- インターネット上での検索方法、ポイント等

ポイント② 冊子全体の構成を見直す

☞ 患者の実際の受診の流れに合わせて、現在の項目を再度カテゴリ化して、最適な構成を目指す。

ポイント③ 一般都民が分かりやすい内容となるよう工夫を図る

☞ 一般の都民が説明がなくても見て分かりやすい内容となるよう、フローチャートやQ&A形式、用語索引の新設などを盛り込む。

※ 冊子の改訂とともに、HPによる周知などインターネットを介したコンテンツの普及啓発の方法を検討・準備を進めていく。

4 今後の予定

- ① 「医療情報ナビ(大人編)」の改訂に係る詳細を検討するため5~6名の委員によるWGを設置
- ② 医療情報に関する理解促進委員会WGにおいて内容を検討
- ③ 冊子の配布・理解促進人材養成研修会等での活用による普及

